

## 2023 年度 遺伝子組換え実験安全管理部会 自己点検・評価

### 1) 年度当初の計画 <P>

2023 年度の活動計画は次の通りであった。

松本大学遺伝子組換え実験安全管理規程第 4 条および第 10 条に則って、学内規程の管理、教育訓練及び健康管理、事故発生時の対応、実験計画の承認の可否等に関する事項を行う。

### 2) 実施・活動状況 <D>

本年度の遺伝子組換え実験安全管理部会は以下の構成であり、事務局からは 2 名のサポートを得て運営された。

- ・学長から任命された者：河野史倫、室谷心、増尾均、福島智子、澤柿教淳、川島均
- ・安全主任者：浅野公介

### ①次年度実験計画審査

#### < 第 24-01 (機関承認実験・継続) >

実験管理者：大学院健康科学研究科 山田一哉教授

実験課題名：高炭水化物食による遺伝子発現調節機構の解析

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物接種実験

実験期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

実験目的：1) 高炭水化物食による糖質・脂質代謝系酵素遺伝子群の転写調節機構を明らかにする。

2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルス・レンチウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

#### < 第 24-02 (機関届出実験) >

実験管理者：大学院健康科学研究科 河野史倫教授

実験課題名：筋特性の発生・維持・変化に関わる分子メカニズムの追求

場所名称：動物飼養保管室、動物実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、組換え動物実験、動物接種実験

実験期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

実験目的：骨格筋への代謝的刺激、メカニカルストレス、神経活動が、どのようなメカニズムで筋肥大や代謝特性の変化を引き起こすのか追求する。

#### < 第 24-03 (機関承認実験・継続) >

実験管理者：大学院健康科学研究科 高木勝広教授

実験課題名：血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明

場所名称：分析機器実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、動物接種実験

実験期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

実験目的：1) インスリン様活性を有する食品成分のスクリーニングし、その作用機構を解析する。

2) 各種遺伝子を過剰発現させるために、その全長 cDNA を含むアデノウイルスを作製し、細胞に感染させ、その作用を調べる。

<第 24-04 (教育目的実験) >

実験管理者：大学院健康科学研究科 高木勝広教授

実験課題名：酵母の形質転換

場所名称：共同実験室、微生物実験室

実験期間：2024年7月1日～2024年7月31日

実験目的：お酒の発酵等に用いられる麹菌 (*Aspergillus oryzae*) 由来のアミラーゼ遺伝子を、酵母菌 (*Saccharomyces cerevisiae*) に導入します。アミラーゼ遺伝子が導入された酵母はアミラーゼを分泌するようになります。

<第 24-05 (機関届出実験) >

実験管理者：人間健康学部健康栄養学科 黒川優准教授

実験課題名：微量元素セレンを輸送するタンパク質の機能解析

場所名称：6号館3階共同実験室、微生物実験室

実験種類：微生物使用実験、大量培養実験

実験期間：2024年4月1日～2025年3月31日

実験目的：タンパク質をコードする遺伝子を組み換え、タンパク質相互作用に重要な働きをする部位を解析する。

### 3)点検・評価の結果 <C>

すべての実験計画について審議の結果、規程・ガイドラインに沿った内容であったため、意義なく承認し、審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で上申した。

### 4)次年度に向けた課題・方策 <A>

松本大学遺伝子組換え実験安全管理規定第4条および第10条に則って、学内規程の管理、教育訓練及び健康管理、事故発生時の対応、実験計画の承認の可否等に関する事項を行う。

<執筆担当/研究倫理委員会 委員長 川島 均>